



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年10月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成27年11月10日 配当支払開始予定日 平成27年12月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	49,618	5.6	753	53.6	704	14.1	442	42.5
27年3月期第2四半期	46,983	△1.1	490	—	617	106.6	310	86.6

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 577百万円 (△10.2%) 27年3月期第2四半期 642百万円 (661.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	18.22	—
27年3月期第2四半期	12.79	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第2四半期	62,742	36,660	58.4	1,511.09
27年3月期	68,001	36,293	53.4	1,495.82

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 36,660百万円 27年3月期 36,293百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	7.50	—	8.50	16.00
28年3月期	—	8.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成27年3月期第2四半期末配当金には記念配当1円00銭、平成27年3月期期末配当金には記念配当2円00銭が含まれています。

3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	107,500	2.4	3,200	△4.8	3,300	△14.6	2,100	6.8	86.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社は、平成27年10月29日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議いたしました。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」については、当該自己株式の取得の影響を考慮しております。なお、当該自己株式の取得については、本日付けで「自己株式の取得及び自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による自己株式の買付けに関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期2Q	27,700,000株	27年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	3,438,920株	27年3月期	3,436,749株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期2Q	24,262,184株	27年3月期2Q	24,265,137株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中であり、

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府と日銀の経済政策により、円安・株高の基調が継続する中で、企業収益の向上、設備投資や雇用情勢の改善など、緩やかな回復傾向で推移したものの、輸入価格や物価の上昇、中国の景気減速をきっかけとした新興国経済の成長鈍化の懸念から、個人消費や輸出に弱さが見られ、景気の停滞感が強まりました。

菓子・飲料・食品業界は、消費税引き上げの影響も一巡し、景気回復に伴う消費マインドの改善が期待されたものの、生活必需品の相次ぐ値上げなどによる実質所得の伸び悩みから、消費者の節約意識は変わらず、慎重な購買動向が続きました。

このような中、当社グループは一貫して食品製造企業として、安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足の追求に向けた活動を推進してまいりました。女性の社会進出や、単身・シニア世帯の増加などによるニーズの変化や多様化するライフスタイルへの対応により、消費者が求める価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や、地域に合わせた企画提案型の営業活動、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発を通して、お客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、品揃えを強化したパーティタイプの半生商品や新しい味の展開を行ったグミ商品、新カテゴリーのポップコーン商品が好調に推移したこと、ビスケット品目、キャンデー品目、スナック品目などが伸張し、売上高は前年同期を上回りました。

利益面では、生産工場の再構築に伴い、減損損失および一部の移設関連損失を計上しましたが、売上高の伸長と継続した生産性の向上、コスト削減、経費の効果的使用に取り組みとともに、投資有価証券の売却益を計上したことなどにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を大きく上回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は47,077百万円（対前年同期比106.2%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレート、チューインガムなどの品目を展開しています。

初夏にかけての低温や8月下旬から急激に暑さが和らいだ影響を受け、カップデザート商品や凍らせて食べるジェラート風食感のデザートが伸び悩みましたが、菓子においては天候要因に恵まれました。

品揃えを強化したパーティタイプ商品「濃厚チョコブラウニー」やチョコレートラスクの「ラシュクーレ」シリーズ、マイベネフィットシリーズなどが伸張しました。季節に合わせた味の展開として辛みを効かせた夏季向け商品、ハロウィンをデザインしたキャラクター商品、映画やプロ野球球団とタイアップした商品企画などを実施しました。

また、「アルフォートミニチョコレート」の新製品“ブロンドミルク”の発売に合わせて「純金のアルフォートミニが当たる！」消費者キャンペーンを行いました。

ロングセラー商品が堅調に推移したことに加え、独自性の高いポップコーン商品やフェットチーネグミシリーズの品揃えを充実させたことなどもあり、全体では前年同期を上回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は2,540百万円（対前年同期比96.1%）となりました。

飲料・食品では、ココナッツミルクを使用したソフトドリンクの展開を図るとともに、ディズニーキャラクターをデザインした天然水のリニューアルを行いました。また、缶入りの保存商品に継続したご支持をいただいたほか、粒状ゼリー入りのドリンクゼリー「粒ジュレ」シリーズの新味や粉末ココア商品「まるやかでおいしいミルクココア」を発売しました。機能性食品は、栄養調整食品「スローバー」シリーズの一部リニューアルを実施し拡販に努めました。

夏場の暑さが長く続かなかつた影響を受けドリンク商品が伸び悩み、全体では前年同期を下回りました。

その他品目では、通信販売事業は、季節催事に合わせた魅力的な品揃えの充実により、お客様の利便性と満足度の向上を図り、顧客の拡大とリピーターの増加に取り組みました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による効率性の向上に取り組んだほか、展開推進による台数の増加に伴って伸張しました。

また、酒類販売事業は、クラフトビールへの関心が継続するなか、既存品やギフト商品などが伸張したことに加え、輸出や受託生産も好調に推移したことにより前年同期を大きく上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は49,618百万円(対前年同期比105.6%)、営業利益は753百万円(対前年同期比153.6%)、経常利益は704百万円(対前年同期比114.1%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は442百万円(対前年同期比142.5%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は62,742百万円となり、対前連結会計年度末比5,258百万円の減少となりました。これは主に、有形固定資産の取得対価等の支払による現金及び預金の減少があったことと、季節変動の影響による受取手形及び売掛金の減少があったことによるものです。

負債は26,081百万円となり、対前連結会計年度末比5,626百万円の減少となりました。これは主に、前連結会計年度に取得した有形固定資産の未払金の減少があったことと、季節変動の影響による支払手形及び買掛金等の減少があったことによるものです。

純資産は36,660百万円となり、対前連結会計年度末比367百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上があったことによるものです。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する説明)

営業活動によるキャッシュ・フローは59百万円の収入(前年同期497百万円の収入、対前年同期比12.0%)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益774百万円があったことと、たな卸資産の増加による支出503百万円等があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2,705百万円の支出(前年同期1,637百万円の支出、対前年同期比165.2%)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3,104百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは527百万円の支出(前年同期507百万円の支出、対前年同期比103.9%)となりました。これは主に、借入金及びリース債務の返済による支出317百万円と配当金の支払額206百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前第2四半期連結会計期間末に比べ593百万円減少し、9,982百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ3,187百万円の減少となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成27年5月1日の「平成27年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、本日付けで「平成28年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照下さい。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,015	9,849
受取手形及び売掛金	12,549	10,137
有価証券	254	133
商品及び製品	3,353	3,730
仕掛品	515	483
原材料及び貯蔵品	2,998	3,160
その他	1,495	2,183
貸倒引当金	△39	△11
流動資産合計	34,143	29,666
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,642	10,375
機械装置及び運搬具(純額)	8,308	7,986
その他(純額)	7,330	7,285
有形固定資産合計	26,280	25,647
無形固定資産		
のれん	1,663	1,606
その他	454	420
無形固定資産合計	2,117	2,026
投資その他の資産		
その他	5,458	5,401
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	5,458	5,401
固定資産合計	33,857	33,075
資産合計	68,001	62,742

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,928	8,311
短期借入金	1,720	1,720
未払法人税等	1,241	653
賞与引当金	1,000	1,216
返品引当金	50	62
その他	10,705	7,163
流動負債合計	24,647	19,126
固定負債		
長期借入金	330	229
役員退職慰労引当金	210	220
退職給付に係る負債	5,518	5,531
資産除去債務	9	9
負ののれん	24	23
その他	967	940
固定負債合計	7,060	6,955
負債合計	31,707	26,081
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,628	7,628
利益剰余金	28,599	28,835
自己株式	△539	△543
株主資本合計	36,724	36,956
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	850	848
為替換算調整勘定	△908	△824
退職給付に係る調整累計額	△372	△320
その他の包括利益累計額合計	△431	△296
純資産合計	36,293	36,660
負債純資産合計	68,001	62,742

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	46,983	49,618
売上原価	28,131	29,680
売上総利益	18,851	19,937
販売費及び一般管理費	18,361	19,184
営業利益	490	753
営業外収益		
受取利息	8	7
受取配当金	35	32
負ののれん償却額	0	0
為替差益	78	—
その他	43	53
営業外収益合計	167	94
営業外費用		
支払利息	23	18
為替差損	—	110
減価償却費	10	6
その他	7	7
営業外費用合計	40	143
経常利益	617	704
特別利益		
固定資産売却益	4	0
投資有価証券売却益	39	630
特別利益合計	44	630
特別損失		
固定資産処分損	6	2
減損損失	4	367
移設関連損失	—	160
その他	0	30
特別損失合計	11	560
税金等調整前四半期純利益	649	774
法人税、住民税及び事業税	488	586
法人税等調整額	△149	△253
法人税等合計	339	332
四半期純利益	310	442
親会社株主に帰属する四半期純利益	310	442

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
四半期純利益	310	442
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	177	△1
為替換算調整勘定	115	84
退職給付に係る調整額	40	51
その他の包括利益合計	332	135
四半期包括利益	642	577
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	642	577
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	649	774
減価償却費	1,522	1,687
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	△44	△40
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	23	18
為替差損益 (△は益)	△92	107
投資有価証券売却損益 (△は益)	△39	△630
固定資産処分損益 (△は益)	2	2
減損損失	4	367
移設関連損失	—	160
売上債権の増減額 (△は増加)	2,616	2,416
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,218	△503
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,439	△1,619
賞与引当金の増減額 (△は減少)	128	216
その他	△720	△1,759
小計	1,449	1,253
利息及び配当金の受取額	45	40
利息の支払額	△22	△18
移設関連損失の支払額	—	△31
法人税等の支払額	△974	△1,185
営業活動によるキャッシュ・フロー	497	59
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,890	△3,104
有形固定資産の売却による収入	110	6
投資有価証券の取得による支出	△33	△56
投資有価証券の売却による収入	228	409
その他	△52	39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,637	△2,705
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△159	△100
リース債務の返済による支出	△188	△217
配当金の支払額	△157	△206
その他	△1	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△507	△527
現金及び現金同等物に係る換算差額	△18	△14
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,666	△3,187
現金及び現金同等物の期首残高	12,242	13,170
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,576	9,982

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社は、平成27年10月29日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得すること及びその具体的な取得方法について、下記のとおり決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行った理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため。

2. 自己株式取得に関する取締役会の決議内容

① 取得対象株式の種類

当社普通株式

② 取得し得る株式の総数

250,000株(上限)

③ 株式の取得価額の総額

420百万円(上限)

④ 取得期間

平成27年10月30日

⑤ 取得の方法

東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付け